
ライバル

みかんだいふく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ライバル

【Nコード】
N9571T

【作者名】
みかんだいふく

【あらすじ】
うちのクラスの名物、朝の小テストで争う二人。

強さの秘訣は何処にある？ 不思議系ラブコメディです！

「また負けたー！」

もはや定番になっている、女の子の甲高い声。

今は、みんなが楽しみにしている毎朝の小テストの時間だ。テストが楽しみつて、おかしい？ 別にみんな、テスト自体が好きなわけじゃないよ。

「俺に勝とうなんて、百年はやいてー！」

悔しそうな女子、得意そうな男子……そうそう、この光景を見るのが、みんなの楽しみなんだ。

女子の方は、さいとうりな齊藤理沙。私の親友で、クラス名物その一。

男子の方は、かやまとくと加山託斗。名物その二。

目の前で繰り広げられている二大名物の攻防戦……っていうかまあ、平たくいえば点数勝負に、クラス中のみんなが注目しているのを感じる。

みんなが押しあわなきや見られない争いを、私は一番近くで……

特等席とも呼べる場所見ることができる。

私、杉田茜すぎたあかねの記憶では、現在二十戦目。

今日、理沙の十九敗目が決定（引き分けが一回）したってわけね。

「明日は、絶対に私が勝つから！」

「お前、いつもそれだよな。その『明日』はいつ来ることやら……」

託斗もやめとけばいいのに、理沙を挑発する。

理沙の顔が怒りで赤くなっていくのが、傍目に見てもよくわかる……
……見る分には面白いけど、後のフォーローが大変だな、これは。

3

そして、昼休み。

一つの机に、二つの椅子。私と理沙が向かい合っているのを、周りのみんなは少し怪訝そうな顔でちらちらと見ている。

「本当にムカつく！ もう、絶対に負けないんだから！」

口の中におかずを入れた状態で、理沙が叫ぶ。

行儀が悪いとか以前に、汚いからやめてほしい。

「……裏があるんじゃない？」

「裏？」

「託斗の強さだよ。秘密でもあるんじゃない？」

短く答えてみると、思ったよりも大きな反応が返ってきた。

「なるほどね……そうか、そうなのよ！　そうでもなくちゃ、私が何度も負けるはずがない！」

食い付きの良さは、プラス思考によるものらしい……自分にそこまでの自信が持てるのも、ある意味すごい。

「そうとわかれば、早速調査よ！」

意気揚々といった感じで、理沙が立ち上がり、教室を出ていった……走り出した理沙に、クラス中の視線が集中したのがわかる。

私は、そんな理沙を追いかけることができない……一人で座っている私を見る人間は、誰一人としていなかった。

「どう？ 何か見つかった？」

五限目が始まる直前に教室へ帰ってきた理沙は、肩で息をしていた。

「わから、な、かった……」

ゼエゼエ言いながら、悔しそうに告げる理沙。

「明日も調べてみる！」

……調べたところで、何もわからないと思うけど……ま、いいか。

放課後、部活にむかう生徒や帰宅する生徒で、生徒玄関前は込み合っている。

二階の教室からだど、帰宅する生徒の姿がよく見える……あ、あそこにいるの、理沙だ。

私は一人、教室こくでたたずんでいる……。

翌朝、またテストが行われた。

結果はまあ、いつも通り……理沙の敗北で終わったんだけど。

「っ！ どうして!？」

「どうしてって……そんなの、努力の成果に決まってんじゃないん

「じゃあ、どうしてそこまで努力するの!？」

もはやよくわからないキレ方をしている理沙……理不尽だな。

「そんなの……お前に勝つために決まってるだろ」

「どうしてそんなの私に勝ちたいのよ！ わけわかんない!」

わけわかんないのは理沙も同じだ。

ヤケになってるみたいで、多分、自分が何を言ってるかもよくわかってないと思う。

「……お前と同じ高校に行きたいからだよ！」

それから託斗は、理沙がどの高校に行っても合わせられるように、必死で勉強していたということを、問われてもいないのに白状した。

「じゃあ……どうして、私と同じ高校に行きたいの？」

「それは……お前が好きだからだよ！」

瞬間、教室中の時間が止まった。

「あいつが死んでから、お前、なんか変だし……心配だったんだよ！
せめて、これで勉強に夢中になってくれたら……それで」

「死んだって、誰のこと？」

「お前がいつも喋ってる……茜だよ！ 茜はもう、この世にはいないのに……お前、あいつのことひきずりすぎなんだよ！」

「人の友達のこと……茜のこと、無責任に死んだなんて、いないなんて言わないで！」

「俺がいるじゃねえか！」

託斗が、理沙を抱きしめる。教室中がざわめいた。

「俺が、茜の代わりになってやるから……だから、もう忘れろよ！」

強く、強く……その言葉は、理沙の心に届いたのかもしれない。

次の日から、うちのクラスの名物が変わった。

朝の小テストじゃなくて、お昼休み……向かい合って、仲よくお弁当を食べる男女。理沙と託斗だ。

もう、私の席はない。必要ない。

翌春、二人は同じ高校に入学した。

よかった……これで私も、向こうに行けるよ。

バイバイ、忘れないでいてくれて、ありがとう。理沙……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9571t/>

ライバル

2011年6月13日13時48分発行